

平成30年9月28日  
滋賀県信用組合

## 第6回 経営諮問会議の概要について

当信用組合は、理事会の諮問機関として、外部有識者で構成される「経営諮問会議」を設置しております。本会議は、外部有識者より経営全般について助言・提言をいただき、これを経営に反映させることにより、経営の客観性・透明性を確保し、コーポレート・ガバナンスを強化することを目的としております。

過日、「第6回経営諮問会議」を開催いたしましたので、その概要につきまして、下記のとおりご報告させていただきます。

### 記

1. 日時 平成30年8月2日（木） 14:00～15:40

2. 場所 琵琶湖ホテル

3. 出席者

（経営諮問委員）〈順不同、敬称略〉

力石 伸夫 （公益財団法人 淡海環境保全財団 前理事長）

藤田 義嗣 （一般社団法人 滋賀経済産業協会 相談役）

片山 聡 （オアシス法律事務所 弁護士）

（滋賀県信用組合）

井上 泰彦 （理事長）

山下 正起 （常務理事）

佐々木 勝之 （常務理事）

中村 義明 （常務理事）

藤井 一男 （常勤理事）

寺田 充 （常勤監事）

#### 4. 井上理事長挨拶要旨

29年度決算では、優先課題である貸出金の増強については、30年3月末残高で前年同月比+48億円、期中平残でも+48億円と、理事長就任後、最も大きく伸ばすことができました。

マイナス金利の影響もあり、貸出金利回りが低下する中、ボリューム増加効果により、貸出金利収は前年同期比+4百万円と、増収となりました。

物件費の削減にも取り組み、コア業務純益は168百万円となり、前年度比▲11百万円ではありますが、経営強化計画の目標131百万円に対しては+37百万円となりました。与信コストの戻り益もあり、3期連続の配当が実現しました。

今後もマイナス金利政策が続くと予想され、いかに計画以上のコア業務純益を出し、配当を継続させていくか、役職員一丸となって、達成しなければならないという強い決意の下、引き続き頑張ってまいります。

#### 5. 当組合からの説明内容

中村常務理事より以下の内容について説明いたしました。

- ・平成29年度決算概況
- ・経営強化計画の進捗状況
- ・前回提言事項への対応状況

#### 6. 意見交換要旨

(1) 出席委員の皆様から以下のご意見、ご提言をいただきました。

- ・金融業界では顧客サービス利益・本業利益が多く、地銀で赤字となっているが、当組合も役務収支が赤字となっている。組合のビジネス構造上の問題で、役務費用が大きいとのことであるが、それでも本業の収支という点から、役務収益を伸ばす工夫が必要ではないか。
- ・人材育成は重要なテーマであり、外部人材活用による人材育成プログラムを推進していることは評価する。全体のレベルアップと平行して、融資に強いリーダー、特に事業再生コンサルの出来るリーダーを育てて欲しい。そして、それを活用して創業支援・新事業支援に力を入れて欲しい。
- ・業法規制もあり厳しいが、これからの地域金融機関は地域商社機能を持っていくべきではないか。それを認めてくれるよう行政に訴えていく必要がある。リスクもあるので体制をしっかりと整えなければならないが、今までのように資金仲介機能だけではなく、仲介機能の基となる部分をどう築いていくかを考えていく必要があるだろう。
- ・例えば、跡継ぎがなく黒字廃業する先が多いのであれば、それを支援することが出来れば、一つのビジネスとして成り立つ可能性はあるだろう。

- 事業承継について、全体的に機運が高まっている。税制面で優遇もあるので、今が取り掛かる一番のチャンスである。顧客向けセミナーや相談会には、ますます力を入れていただきたい。
- 今までの延長線上ではなく、前向きに、今までと少し違うことにチャレンジしていかなければならない。現状の体制の中でも出来る限りのチャレンジはしていくべきである。

(2) 井上理事長からの回答

貴重なご提言を頂きまして、ありがとうございます。頂いた意見を真摯に受け止め、経営体力の増強、人材育成の強化、事業承継支援に取り組むことにより、資金仲介機能の以外の部分でも信用組合の特性発揮に努めてまいります。

今後ともご支援ご指導宜しくお願い申し上げます、お礼に代えさせて頂きたいと思っております。

以上